

# 仙北市総合計画

## 観光産業を生かした 北東北の交流拠点都市をめざして

仙北市は九月定例議会に、今後十年間の「仙北市総合計画」の素案を示した。

議会は、仙北市の憲法ともいえる総合計画を精査するため、議会全員協議会を二日間開催し質疑した。

さらに、本会議でも質疑をして全会一致で議決された。これにより新市建設計画がスタートすることになる。

計画書は、序論、基本構想、基本計画、実施計画の四編に策定されている。

序論にある、計画策定の目的は、地域の均衡ある発展と住民福祉の向上を図るには、明確な将来ビジョンを示す必要がある、合併協議により策定された「新市建設計画」の理念を継承し、より発展的、具体的なまちづくりの指針として策定するものである。

計画の期間は平成十八年度を初年度とし、平成二十七年までの十年間とする。

実施計画は三年間の計画で、ローリング方式により毎年度見直しをする。と記されている。

### 本会議での質疑抜粋

**問** 総合計画の必要性、重要性は理解できるが、どう実

行し、目標に到達するのかわかる。実行には予算が伴うが、心配なのは財源の問題である。

六月定例会では、九月に総合計画とあわせて、行財政改革の基本方針となる行財政改革大綱を策定し、総合的な行政運営の指針を定めるとの答弁であった。

総合計画と行財政改革は切り離せないものと考えているかどうか。

**答** 行財政改革大綱については六月定例会で、基本計画と合わせて検討中であり一緒に示したい旨の答弁をしているが、結果として今回できなかった。

大綱策定の進捗状況は現在、市民の方々をメンバーとした行政改革懇談会を設置し一回会議を開き、見てもらっている。予定では近く第二回目の会議を開いて意見を集約し、九月中にま

とめた後に議会に説明したいと考えている。

**問** 「基本構想」の中に、職員定数の削減や事務事業の見直しにより経費の削減に努めるとある。

仙北市も具体的なものを示す時期であり、部内プロジェクトなどお互い切磋琢磨しながら将来の仙北市を考えていく体制が今こそ必要ではないのか。また、職員の削減は住民サービスの低下に繋がるのではないかと心配の声もあるが市長の考えを伺いたい。

**答** 総合計画の中で三つのプロジェクトを考えている。行政改革の重要な検討課題として具体的な役割分担をその中から抜き出し、議会にも特別委員会の設置等のお願ひもあると思うが、総合計画のフローの中で進めていきたい。

職員減、事務事業の見直しは、結果的に財源の捻出項目として、当然人件費の削減がある。しかし、それは財源を生み出す無理な削減でなく、住民サービスを低下させないという前提の下に進めていかなければならない。

合併効果として、三町村でやってきた業務を統一した組織としてやっていくことで削減の要

素は十分あると思う。市民の情報を伝える、市民の声を聞くといったことが公開している仙北市ウェブサイトに内容が無い。内容を充実させるには大変な作業だと思うが真剣にやってもらいたい。

**答** 行政の透明化にかかることはますます重要なことになると認識している。

他からも仙北市のホームページの内容が不十分だと指摘を受けている。今後、情報センター及び市の関係機関とも協議して充実に努めていく。

**問** 市民の声を反映させるためのパブリックコメント制度の導入については、計画段階で市民はもとより議会にも、素案のそのまた素案を示しながら議論して政策なり計画を作っていくべきだと思いませんか。

**答** 意見をどの段階で聞くか、ある一定のまとまった段階で提案することが効率的であるとの考えであり、説明した段階で修正はしないとのスタンスではない。

議会の意見も聞きながら目的を達成したいと思っている。